

---

# タイトル未定

篠原

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

タイトル未定

### 【Nコード】

N3327G

### 【作者名】

篠原

### 【あらすじ】

その日、何故かものすごくイライラしてたんだ。でも、このままじゃいけないと思ってせっかく抑え込んだのに、あいつ等が・・・

(前書き)

- ・なんか暗いです
- ・人が死にます。ちょっと虐殺っぽく(みえないかもしれませんが
- ・いつも通り意味不明です。想像力でカバーしてあげてください

何故、こうなったかはわからない。

知るつもりもないし、知りたいとも思わなかったから。

ただ、その日はひどくイライラしてたんだ。

見るもの全てが癩に障る。

仲よさげに歩く親子。

これから遊びに行くのか楽しそうに友人と走りまわる子供。  
携帯を見つめながら歩く女子高生。

自転車をこいで帰路についているであろう男子高校生。  
杖を使って必死に歩く年寄り。

本当に、ただその日はひどくイライラしていただけなんだ。

楽しそうな声。

聞こえる笑い声。

携帯の電子音。

ブレーキ時特有の音。

杖をつく際に出るコツツという音。

全てに対してイライラした。

無くなればいいのに。

頭の片隅でそう思った。

全て、なくなってしまうえばいいのに。

再びそう思ったが、すぐに頭を振って考えを追い出そうとした。

それはダメだ。

だって、それは最悪な行為だ。

だから、決してやってはいけない。

そうだ。

それはやってはいけないことなんだ。

そうやって自分に言い聞かせるように何度も頭の中で反復させる。

そうしてだいぶ落ち着いて、自分も帰ろうとしたとき……

目の前から、明らかに不良と思われるやつらが来た。

楽しそうに喋りながら。

そして、自分に気づくと、ニタニタと嫌な笑みを浮かべ、仲間と話し合う。

それを聞いた仲間も、こちらを同じような笑みで見つめ、どんどんと間合いを詰めてくる。

そして、すれ違いざまに。

ドンッ

ぶつかった。

自分からではなく、相手側から。ワザと・・・

その後は昔のマンガでよくあるパターン。

めんどくさい。

これが始め思ったこと。

その次が

イライラする。

先ほどようやく静まりかえった感情が再び蘇る。

しかも、それはまるで火に油を注いだように、メラメラと燃え上がる。

ヤバいな。

頭の片隅で、不良に胸倉つかまれ耳元で叫ばれている状況でもそう冷静に思った。

カツアゲされるのが怖い？

ハズレ

痛い目にあいたくない？

それもハズレ…

俺が怖いのは、ようやくさつき沈めたもの。

さすがの俺でもさ、ここまであからさまにやられると、抑えが効かなくなっちまう。

自分はきつと嫌な笑みを浮かべたんだろう。

不良たちは気味悪がってる、というより畏怖してる感じ。

こいつ、狂ってやがるって。

何かを感じ取ったのか、お互い顔を見合い、俺を突き放してそそくさとその場を離れる。

でもさ、

今さら逃げようなんて、なんて馬鹿なんだろう。

逃げられると思ってるのか？

なあ・・・

どうせなら遊ぼつぜ？

せっかくお前らが揺り起してくれたんだ。

責任、とってくれよ。

・・・だから、逃げんたって。

そうやって逃げると、思わず嬲り殺しちまうだろ？

せめてもの思いに、

あんま、痛い思いをさせずに逝かせてやるつもりでんのに・・・

なあ、

遊んでくれよ・・・？

それから数日後、とある古倉庫から男子数人の虐殺死体が見つかった。

それは見るも無残なモノで、幾度となく惨劇を見てきたプロの警察官でも目をそむけたくなるようなものだった。

1人は頭の中身をぶちまけ、体のあちこちがかけている。

1人は顔の判別ができない。手足も奇妙な方向へと曲がっていた。

1人はバラバラ。体の各部分を探すのに、とても苦労した。

1人は串刺し。体のいたるところに釘をはじめいろいろのものが突き刺さっており、体の血液は全て抜けているのか人の肌の色ではとうてい考えられない色をしていた。

警察はそれを見て

「人間がなせる所業ではない」

と語ったそうだ・・・

(後書き)

なんか、久しぶりがこれでごめんなさい。

つか、続きもの放置しててすみません。がんばります。

それでも待っててやるよ！って方はこれからもどうぞよろしくお願  
いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3327g/>

---

タイトル未定

2011年1月19日09時13分発行